

保護者のみなさま

箕面市立第二中学校  
校長 俵積田 武志

## 学校教育自己診断の報告について

早春の候、保護者のみなさまにおかれましては益々ご健勝のこととおよろこび申し上げます。平素は本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年の10月末、保護者のみなさまを対象に箕面市内同じ内容で、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。アンケートの提出の回収率は約80%(昨年度+1%)でした。集計結果及び考察を以下にまとめましたので、ご報告いたします。今後も、一人ひとりの子どもたちの良さを認め伸ばしていけるよう、保護者のみなさまとの連携を大切に、教職員一同、力をあわせて頑張っていきたいと思いますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## ★集計について

質問は30項目で、以下の選択肢で回答を求めました。

A)よくあてはまる B)ややあてはまる C)あまりあてはまらない D)全くあてはまらない E)わからない  
質問をグループに分けて、3年間の肯定的回答(A+B)%の集計を並べました。

## ■教育方針、全般的なことに関して

設問	項目の内容	R5	R6	R7
1	子どもは、学校に行くのを楽しみにしている	78	78	79
2	子どもは、自分の学級が楽しいと言っている	78	81	83
10	学校は、教育方針をわかりやすく伝えている(教育目標を含む)	66	68	65
26	学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている	58	56	63

設問1「学校に行くのを楽しみにしている」と設問2「自分の学級が楽しいと言っている」に関しては、毎年80%近くの肯定的回答があります。誰もが「学級や学校全体が楽しい」と思いながら学校生活を送ってもらえるとうれしいのですが、子どもたちが学習面、友だち関係、生活面などで、壁にぶつかることや、それらで悩んでしまうことはどうしてもあることだと思います。学校とご家庭で互いに協力しながらお子さまの心の揺れを受け止め、課題に寄り添ったサポートを続け、より多くの子どもたちが「学校や学級が楽しい」と感じる学校づくりになお一層努めていきたいと思っています。

設問26「校長のリーダーシップが…」と設問10「学校は、教育方針をわかりやすく…」に関しては、校長から学校全般に関する情報を二中ブログで記事として発信させていただいています。昨今、インターネット環境における画像等に関する事件が多く発生しており、教育現場においても『学校からの発信』の難しさを感じているところです。引き続き、二中ホームページの「校長から」のページや二中ブログ、デジタル連絡帳「トモリンクス」などを活用しながら学校の教育方針や子どもたちの様子についての情報配信を積極的かつ慎重に行っていきたいと思っています。

## ■保護者・地域に関して

設問	項目の内容	R5	R6	R7
11	学校は、保護者・地域と学校の課題を共有し、保護者・地域に教育活動の支援ができる機会をつくっている	66	70	63
12	学校は、保護者の相談に応じてくれる	80	79	72

20	学校は、家庭への連絡や情報提供を行っている	83	85	86
22	学習の内容や進度(行事)等を懇談や学級(学年)通信などによって知ることができる	77	82	83
23	デジタル連絡帳によって、学校との連絡がスムーズになった	66	75	81
28	電話での問い合わせや学校を訪問した際、担当者が明確で迅速かつ丁寧な対応が行われている。	77	74	74
29	学校、学年、学級に決められているルール等は、子どもの状況にあった適切なものになっている。	61	65	67

設問11 「学校は、保護者・地域と学校の課題を共有し…」に関しては、学校だより『二中の窓』を人権教育担当教員が作成して学年や学校のさまざまなとりのくみの様子をお伝えしています。また、月ごとにPTA運営委員会を開催し、学期ごとに学校協議会を開催して保護者や地域の方々に二中の教育活動について情報発信しています。校長からは『部活動の地域展開』『現在の高校入試システム』などをディスカッションのテーマに挙げて出席された方々からご意見等をいただき教育活動に生かすようにすすめています。

設問12 「学校は、保護者の相談に…」に関しては、今年度の肯定的な回答率がかなり下回りました。「わからない」の回答率が20%でした。設問23 「デジタル連絡帳によって…」(トモリンクス)における相談が増える傾向にあることから対面・電話・デジタルでの相談が「相談して良い方向に向かった」となるようご家庭とつながっていきたいと考えています。

設問22・23 「家庭への連絡や情報提供」に関しては、担任や学年教員から学級通信や学年だよりをプリントやトモリンクスを通してお知らせしております。また、トモリンクスでの欠席連絡など保護者の方々との連絡がかなりスムーズになってきています。今後も個人情報等に注意を払い、複数教員による確認を心がけ、さらに良い活用ができればと思っています。

設問28 「保護者の方への電話の対応…」に関しては、設問12で述べましたように丁寧な対応を心がけてまいります。学校の電話対応においては、平日の夜18時から朝8時までには電話がセキュリティ会社に転送となります。保護者の方々もご理解とご協力をお願いいたします。

設問29 「学校、学年、学級のルール等…」に関しては、子どもたちの意見等を聴き、教職員と話し合いながらルールの変更等に取り組んでいくことができればと考えています。

## ■授業・評価に関すること

設問	項目の内容	R5	R6	R7
3	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている	59	59	59
4	子どもは、家庭学習を自主的に行っている	56	54	56
8	先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている	65	69	69
24	通知票は、子どもの学力や達成度をわかりやすく表すように工夫されている	76	79	77
5	子どもは、英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる	55	46	46
6	子どもは、タブレット端末での学習(デジタルドリルを含む)に意欲的に取り組んでいる	26	30	32

設問3「授業が楽しくわかりやすい」に関しては、「子どもたちの肯定的な回答率をアップ」を毎年目標に掲げて毎日の授業づくり研究に力を注いでいます。同じく、本アンケートにおける「保護者の方々の肯定的な回答もアップさせたい」と強く思いながらとりにくんでいます。二中では、各教科の授業づくり研究はもとより、1時間の授業、そして1日6時間の授業がつながるようにすべての教科に教職員がテーマに沿った意見等が出し合える授業づくりの研究を進めているところです。

### 【授業づくりの研究テーマ】

#### ◆令和7年(2025年度)→「非認知能力の向上により、学力 UP をめざす」

この5年間、『非認知能力の向上』を念頭に授業づくり研究を行ってきました。今年度は子どもたちに教職員が作成した『非認知能力の向上により、学力 UP をめざす』動画と一緒に見てもらいながら意識づけるように実践しました。授業やほかの教育活動の場面ごとに子どもたちから「粘り強く!」「わかりやすく伝えよう!」「これ非認知やんな!」などの声が聞こえてきました。昨年度の3つの研究「教材の工夫を通して、気づきを言葉にする力をつけさせる研究」「考えたくなる問いを通して、考えをつくり出す力をつけさせる研究」「様々な活動を通して思いや考えを伝え合う力をつけさせる研究」を積み重ね、子どもたちとともにわかる授業づくりに力を注いできました。数値化はできないが求められる能力、CMでも流れている「非認知能力をつける」を意識し、「わかった!」「次のステップにいける!」「自信がもてる授業づくり」にとりくみ『学力 UP』につなげていけるようこれからもとりにくんでまいります。

#### 【非認知能力の例】

- 情報選択能力…たくさんある情報の中から必要なものだけを選び取る力
- 伝達力…わかりやすく他の人に伝えることができる力
- 向上心…あきらめることなく自分自身を高めていく力 など

#### 【昨年度までの研究テーマ】

令和3年度(2021年度)	「授業をつくる全員が『学ぶことは楽しい』と実感できる授業をめざして」 ～認め合い、高め合い、学びを楽しめる子」を育てたい～
令和4年度(2022年度)	「子どもたちが熱中する教室」 ～モチベーションを上げるしかけづくり～
令和5年度(2023年度)	「生徒主体で学び合い」～自信あふれる環境づくり～ 協働学習をすすめながら基礎学力の定着をめざす研究
令和6年度(2024年度)	「子どもたちが学びを楽しみ、力をつけられる授業をめざして」 ～言葉を通して気づき、考え、伝え合う力をつけさせたい～

設問8「先生は、子どもの評価を適切・公平に…」設問24「通知表は…」の肯定的な回答の割合をさらに上げたいと思っています。校長から先生たちに「評価の妥当性」という言葉を強調して子どもたち一人ひとりの評価に向かってもらっています。引き続き、適切(ふさわしいこと)・公平(偏らないこと)を、先生同士が確認しあい、子どもの評価にあたってまいります。

設問5「英語で発表…」に関しては、英語の先生と ALT の先生たちで日々コミュニケーションをとりながら授業づくりをしています。2学期に2名の ALT の先生方が着任しています。3名の ALT の先生たちは授業だけでなく、子どもたちが活動する場所に積極的に入っていき、気さくに話しかけ、英語でコミュニケーションをとってくれています。英語の授業、英語コミュニケーションの授業、日々の英語による対話などのあり方を振り返りながらモデルチェンジをし、子どもたちが、積極的かつ楽しんで、英語での発表やコミュニケーションができる実践を進めていきたいと思っています。

設問6「タブレット端末(デジタルドリルを含む)での学習…」に関しては、授業等において活用はすすめてはいるのですが、すべての授業時間に「子どもたちが進んで活用している」という様子には及んでおりません。先に述べた授業づくりの研究において『タブレット端末を主とする授業展開』もしっかりと教職員で共有し、子どもたちにとってわかりやすく楽しい教材、発表やコミュニケーションがしやすい学習方法など、タブレット端末(デジタルドリルを含む)を有効に活用していきたいと思えます。

### ■生徒指導・生徒理解・教職員に関すること

設問	項目の内容	R5	R6	R7
7	先生は、子どもたちを十分に理解している	65	69	65
9	先生は、子どものまちがった行動を指導してくれる	71	75	72
13	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる	65	69	65
21	学校では、子どもたちの個人情報を守られている	74	76	75
27	子ども同士のトラブル等に対し、丁寧できめ細やかな対応により早期解決ができています	48	51	54

各学年・学校全体で「子どもへの理解」「子どもへの指導」「いじめ防止へのとりくみ」「子ども個人情報」「丁寧な対応・早期解決」について子どもたちの気持ちに寄り添いながら『伝わる生徒指導』としてとりくんでいます。今後もそのことを大切に『あったかい二中づくり』にとりくんでまいります。

※「伝わる生徒指導」とは、校長が発した表現で、「第一に聴き、理解したい姿勢を示し」「理解の上で正しく指導」「よりよいステップが踏める言葉かけ」を大切に、子どもたちへの理解および指導を進めることです。

### ■人権教育・オンライン・小中連携などさまざまなとりくみに関すること

設問	項目の内容	R5	R6	R7
14	学校は、子どもに生命を大切にする心や態度を育てようとしている	69	67	68
15	学校は、全ての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている	70	72	70
16	学校は、オンラインを活用したとりくみ(授業・懇談・補習など)を積極的に進めている。	72	63	61
17	学校は、ICT機器の取り扱いについて、子どもに丁寧に説明している。	47	48	47
25	学校は、小中連携を行っている。(箕面市は小中連携を進めています。)	61	58	62

設問13「いじめのない学校づくりに…」設問14「子どもに生命の大切にする…」設問15「子どもの人権を尊重…」に関しては、各学年・学校全体でさまざまな題材を通してとりくんでいます。また、今年度もゲストティーチャーをお招きして「自分のこと、仲間のこと、地域のこと」を深く考える内容で学習しました。例えば1年生では「いのちの学習(保護者からのおてがみ)」「地域学習」「多文化共生学習(国際理解学習)」、2年生では「キャリア教育」「職場体験学習」「進路学習」「平和学習」「心とからだの人権教育(性教育)」、3年生では「平和学習」「進路学習」「心とからだの人権教育(性教育)」「地域学習」など、お互いを認め合い、差別やいじめを許さない心を育てています。さまざまな人権教育にとりくむなかで、校長から先生たちには「自分の言葉で思いを伝えることを大切に」「すべての教育活動において人を大切にする声かけを」と話しています。また、今年も子どもたちには集会のたびに「みんな やさしくなった?」「あのネットニュースはどう感じている?正義とはなにか?」「あったかい二中をつくろう!」と願いを込めて声をかけていま

す。「いっしょに考え ひろげる未来」を軸に、子どもたちが互いの生き方を保障し、正しいと思うことは一緒に行動にうつせるような人権教育と生徒指導にこれからも力を注いでいきたいと考えます。

設問16「オンラインの活用…」に関しては、学級閉鎖や学年閉鎖の時にはオンラインを活用しています。また、体調不良等で欠席した場合も自宅からオンラインで授業を受けることができます。今後も保護者説明会や懇談などで、オンラインを有効に活用していきたいと考えています。設問17「ICT 機器の…」に関しましては、設問6と同じように、教職員同士でICT活用技術を高め合い、授業等におけるタブレット端末の活用を積極的に進め、子どもたちに丁寧な説明を心がけていきたいと思います。

設問25「小中連携」に関しては、今年度は二中の公開授業研究会に校区の小学校と子ども園の先生方に来ていただき「非認知能力の向上により、学力 UP をめざす」をテーマにした授業研究会を行いました。また、二中の生徒指導主事や人権教育担当の先生たちが各小学校の6年生の授業参観をしたり、中学校の評価方法や卒業後の進路について授業をしたりしています。図書館司書の先生も各小学校を訪問して二中図書館の紹介を行っています。2月には二中校区の先生たちが萱野小学校に集まって人権教育の研修を行いました。授業づくりをはじめ担当する分野別で校区が連携するよう努めています。今後も、二中校区がともにあたたかい空間となるようさまざまな活動にとりくんでいきたいと思っています。

#### ■危機管理・施設管理に関すること

設問	項目の内容	R5	R6	R7
18	地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に周知されている。	90	96	93
19	学校の施設・設備は学習環境において満足できる。	67	70	70
30	学校は新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりと行っている。	60	—	—

自然災害や新型コロナウイルス感染症や不審者被害に関する対応の情報発信は、引き続き学校メール（ライデンメール）及びトモリンクスからお伝えいたします。昨年度は学校がある時間帯に校区で火災が2度も発生し、学校待機、または下校誘導における緊急対応を行うケースがありました。避難訓練等を定期的にも実施していることもあり、子どもたちも素直に先生たちの指示を受け入れ、円滑な対応をとることができています。このような例も子どもたちにしっかりと伝えながら避難訓練等にとりくんでいます。学校メール等に対しても保護者のみなさまが協力的でありご理解くださっていることに本当に感謝しています。大雨等の被害で破損している箇所、空調設備等の不具合につきましては、箕面市教育委員会に強く修理依頼をしているところであります。子どもたちが安心して学校生活を送れるように、日頃から施設・設備の点検をして対応を心がけてまいります。